

梅鶯仏教壮年会 除夜会



12月31日（大晦日夜）

午後6時 除夜の鐘

*行く年に感謝し、来る年が安穩な
れと願い、みんなで除夜の鐘をつ
きましょう。

午後8時 お勤め（正信偈）



会員の皆様は大変ご苦勞様ですが、
午後4時から準備をお願いします。

「ちよつといい話」

坊守には負担を掛けますが、報
恩講の「お斎（とき）」は、実に

楽しいひと時です。「は、実に

それが旨い酒と肴もさることな

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

い、その場だからです。法友との語ら

に、幼子が不安なときや悲しいとき
なくとも、「お母さん」と思わ
ず、声に出します。

あれはいつでも自分のことを思
い、確認してくれているお母さんの存
在を確認する気持ちがある、思わず声
に出してくるのかもしれない。

ぶ、声は子供の声であつても、その
声に「母親」を感じる時、すでに

「その声」は母親そのものとなつ
て、阿弥陀様のご本願によつて必ず

助けられ、お浄土に生まれさせて
頂く信じ、ふと、私の口からこ

ぼれで、私の「南無阿弥陀仏」のお念
仏は、同時に阿弥陀様の呼び声なの

に、同時に阿弥陀様の呼び声なの
でしよう。

なんとも味わいのあるお話を
聞かせて頂きました。

政民さんありがとうございます。そして梅
鶯仏壮のみなさん、本年も楽しい
ひと時をありがとうございます。

ひ、

あなただけのこころが

きんでもきれいに

なえらんきい

見えらんきい

相田みつを

題材法話

本年もこうして梅鶯仏の報恩講をお勤め出来まし

たこと、有り難いことと悦

んでおります。

これ報恩講といいますのは、

これまでに度々申しあげ

ておりますが、親鸞聖人の

ご苦労を偲びつ、親鸞聖人の

が必ずお浄土に生まれさせ

て頂けるとなつたことを

悦ぶとともに、この教えを

多くの方々に広げたいと

広め、ともに悦び合います。

が大切なことであります。

が、心がどうかという貧

しい方向にいかつていうと

うに思われる、今の世の中

に、あつて、私達一人ひと

が、こうして、念仏の輪を

広げることによつて、仏法

と願ひ、世の中安んずる

事なことであらうと思ひま

す。

○「闇に烏（からす）」

言葉「闇に烏」という

中では黒い烏を見分



けることとは、難しいとい

分が間違つていても、間違

いの世界にいて、その

間違いに気づくのが、難

い」ということの譬であ

ります。

ては、これは私達の存在に

私は、凡愚だといわれ、

「迷ひの存在」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ

「迷ひの世界」だといわれ



鳥自身は真つ黒のまんま

なので、すけれど、お日

光に照らされることによ

て、今まで見えなかつた

が見えるようになったので

す。

○仏の光に照らされて

く、仏様とこの私の関係

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の

と、この私は煩惱具足の



きたという事なので、

その私が、南無阿弥陀

仏の本願に出会わさせて

き、仏さまの智慧に照ら

され、煩惱具足の凡夫と

鳥のまんま、なんら変わ

ことは、ないのですが、

具足の凡夫のまんま、真

実報土のお浄土へと生ま

たので、

この南無阿弥陀仏のお

仏の世界に、今出会わせ

す、ごいことなのです。

○夕闇にさまよう少年

た、これはある漁師町に

何人かの友達と、釣り船

に乗って、沖釣りに出か

の、夢中になる内に、夕

迫り、辺りが見える、暗

なりは、はじめました。

あわてて、帰りの支度



の、流れが変わつて、潮

さつぱり方角が分か

らなくなり、

以下次号

仏報恩講住職法話